

こうちミュージアムネットワーク通信

第3号 2005年3月

目次

土佐の文化財…1 随想「平成浦島太郎物語」…2 文化の言葉「相互貸借」…2 会員紹介「平和資料館・草の家」「香北町立吉井勇記念館」「龍馬歴史館」「窪川町立美術館」…3 活動報告…4 コラム…5 現場通信「『総合的な学習の時間』の活用」…6 展示会批評「ピカソ展 幻のジャクリーヌ・コレクション」を観て…7 情報コーナー…8



土佐豊永万葉植物園（定福寺境内）

蓮ハ平和の象徴也
大賀一郎 書



土佐の文化財

大賀蓮

おがはす
一九五一年三月、千葉県検見川東大農場の弥生遺跡から、三粒の蓮の実が大賀一郎博士によって発掘された。二千年以上地下に眠っていた蓮の実の一粒は五月に発芽し、翌年七月には淡紅色の美しい花をつけた。生命の神秘を伝えるこの眠りから覚めた古代蓮は、博士の名を取って大賀蓮と呼ばれている。一九五四年には千葉県の天然記念物に指定された。

土佐豊永万葉植物園（定福寺境内）には、一九七八年に三株が寄贈された。当時の植物園顧問である門田久男氏は万葉植物の代表格である蓮を育てたいと願い、各地を探し続け、大賀博士の愛弟子である和歌山県御坊市の阪本祐二氏より分けていただいた。その年の夏には早くも第一輪が開花し、以来毎年開花を続けている。

開花期は六月下旬から八月上旬。早朝から昼ごろまでが見ごろ。夏の朝霧の境内に、静かに咲く大輪の大賀蓮の花は清浄な香りを漂わせ、幻想的で美しい。

土佐豊永万葉植物園では蓮の他に万葉集に出てくる植物約百五十種を育成しており、四季を通じてそれらの観察が楽しめる。

（土佐豊永万葉植物園保存会事務局

釣井 幸）

随想

平成浦島太郎物語

徳平洋子

「昔むかし、子どもにいじめられていた亀を、助けた男が竜宮城に案内され、乙姫様に変なもてなしを受けました……」ご存じ「浦島太郎」のお話ですが、きょうは、平成版「浦島太郎物語」をご紹介します。

時は平成十六年、春野のとある海岸のテトラポットの中に、もがき苦しむ一頭の家亀がいました。

海亀の卵を探しに朝早く浜辺にきた心優しい町の職員は、何とか助けてやりたいと思いましたが、百キロ近い海亀を一人で引きあげることは出来ません。そこで男は家に帰りロープや杭を持って父親と二人で海亀救出作戦を開始しました。

しかし、亀はテトラポットの狭い隙間に落ち込んでおり、しかも、亀は自分が助けられているという意識に乏しく、暴れて暴れてなかなかうまく助け出すことが出来ません。

そのうち、騒ぎを聞きつけて近所の人や通りがかりの人たちが大勢駆けつけ、浜はてんやわんやの大騒ぎ。ああでもない、こうでもないかと格闘の末、やつと無事砂浜におろすことが出来ました。このころになると、亀も自分の置かれている立場を理解したのか、何

度も頭を下げて皆にお礼を言いました。(筆者にはそう見えましたが)

そして、職員の男に「どうぞ私の背中に乗ってください。竜宮城へご案内します。」といいます。(少なくとも筆者にはそう聞こえました)男は、未だ見ぬ「竜宮城」への興味はありましたが、海中での息止めにイマイチ自信がなかったため、亀の申し出を丁寧に断りました。すると亀は、何度も何度も頭を下げて沖へと消えていきましたとさ。これは、ちよっぴり嘘のような本当のおはなし。

春野町の海岸には、毎年夏になると海亀が産卵のために浜辺にあがってきます。ちなみに今年には三〇頭余りの海亀が上陸し、そのうち約半数が産卵をしました。卵をそのまま放置しておく、高波にさらわれたり、掘り返されたりして無くなってしまう。

このため、春野町では、三年ほど前から地元の小中学校にふ化場をつくり、産卵後は卵を移動させ、ふ化した子亀を子供たちが海に放流するという作業を繰り返しております。

クーラーの中で仕事をすると同僚をしり目に、担当職員は、深夜や早朝の産卵状況の確認やふ化場への卵の移動、

ふ化場の管理等々休む間もなく忙しい日々を送ります。

また、海亀は車のクラクション、花火の音など音に対して大変敏感で、そういった事に対する巡回、監視も必要で、熱心な地元の方のご協力もいただいております。

海亀は一回の産卵で一〇〇個余りの卵を生むようですが、今年は一四頭分の卵約一、五〇〇個がふ化場で「そのとき」を待っています。ただ、ふ化率は六〇%、生存率は一%以下との説もあり、自然の過酷さも感じます。

また、前述のとおり上陸した亀が全て産卵するとは限らず、深夜、産卵場所を探しあぐねてやむなく海に帰る海亀の姿を想像すると、心が切なくなります。

こうした海亀の生息が、よけいに私たちに伝説や物語を作らせるのかも知れません。

蛇足ですが、亀を助けた男は、大変な釣り好きで、その後の釣果といえは、いさぎ五〇匹は朝飯前、一〇〇匹近い時もあるようで、助けた亀の「恩返し」だともつばらの評判です。

(春野町立郷土資料館)

「相互貸借」

「図書館相互間で資料の貸借をすること」です。発行される出版物など、資料は増大しています。最近では蔵書目録をWEB上で公開する図書館が多くなりました。それに伴い利用者の要求は多様化し、単独の図書館が利用者の要求するすべての資料を備えることが難しくなっています。相互貸借によって、利用者は身近な図書館を窓口として、あらゆる図書館にある資料を利用できるようになります。

特に県立図書館は、その業務のひとつに「市町村立図書館の支援」をあげており、その一環としての市町村立図書館への貸出しは、最もよく行われている相互貸借の形態と言えるでしょう。

文化の言葉

問題点もあります。資料の運搬は宅配便が中心となります。したが、送料は館の負担です。無料を原則とする公共図書館では、利用者に費用を要求できないのです。また、「相互」

貸借と言いながら実情は、小さい館が一方的に大きい館に借りる傾向があります。よって、貸出冊数・資料の制限・借り受け側が送料全額負担など、やむを得ず制限を設けている館もあるようです。余談ですが、利用者が急ぐ場合、購入できる資料であっても相互貸借を申し込まなくてはならないことがあります。地方の書店では、注文してから手元に届くまでに一ヶ月近くかかるからです。

(須崎市立図書館 大澤知代)

会 員 紹 介

【平和資料館・草の家】

平和資料館・草の家は平和と教育、環境を考える平和博物館です。一九七九年から始まった「高知空襲展―戦争と平和を考える資料展」の経験から、民衆の立場で戦争の実相と平和の大切さを伝える平和資料館をつくる運動が始まり、一九八九年十一月十一日―第一次世界大戦終結の「平和の日」―平和資料館・草の家が誕生しました。戦争と平和に関する資料の収集・整理・保存、常設展示と調査研究につとめ、平和学習の教材をつくり、多くの市民に貸し出せるようにしています。草の家にある当時の防空頭巾や千人針、焼夷弾、戦時中の本などを子どもが触りながら体験、学ぶことができます。また草の家は戦争の様々な側面を地域から掘り起こしていくことを重視し、戦争の被害（高知空襲）、加害（南京大虐殺、日本軍「慰安婦」）、抵抗（反戦詩人横村浩）の様々な戦争の側面を展示しています。

平和を願う市民の皆さん！ 平和資料館・草の家と共に歩みませんか？

（平和資料館・草の家 金英丸（キム ヨンファン）



【龍馬歴史館】

土佐が生んだ幕末の英雄、坂本龍馬は僅か三十三年間の生涯の中で数々の逸話を残し、幾多の大事業を成し、新時代へ日本を導いた重要なキーマンであったと言えるのですが、彼が我々に残した最大の遺産は、龍馬自身のその自由闊達なる生きざまそのものであると私達は考えます。

そして、同時代を駆け抜け、巡り会った幾多のヒーローや同志たちとのドラマがあったことも忘れてはなりません。

幕末に数多くの志士を生んだ野市町にある龍馬歴史館では、そんな坂本龍馬が織り成す幕末の時代とその生きざまを二六場面一八〇体のろう人形で生き生きと鮮やかに再現してまいります。

また「絵金と世界の偉人コーナー」では土佐の幕末絵師絵金の屏風絵一六双とガンジー、ケネディ等の世界の偉人新作蠟人形もご好評を頂いております。

また、八月には世界のクラシックカーを二〇数台展示する「世界クラシックカー博物館」も併設開館しております。

（龍馬歴史館 水田耕二）



【香北町立吉井勇記念館】

香北町立吉井勇記念館は、平成十五年五月三十一日に吉井勇の事績を後世に正しく伝えるとともに、勇を中心に上代々現代の詩歌を研究する施設として開館しました。主に次のような活動を行っています。

【顕彰事業】吉井勇顕彰短歌大会（今年第二回。選者：佐佐木幸綱氏・楠瀬兵五郎氏。平成十六年十月十日（日）猪野々にて開催）

【展示活動】常設展示ではなく四季に応じて頻繁に展示替を実施。企画展は年一〜二回。

【教育普及活動】①学校教育との連携（自己表現としての短歌の普及）②体験型学習（*「文学歴史体験散歩」折々にご案内します。*「香北町高齢者教室との連携」など）

当館では文学を生み出すのは人間の営みそのものと考え、作品とそれを生み出す歴史・民俗に触れることにより明確化される「自己の真実の感情と向きあう心」を最も大切にしています。事前にご連絡下されば展示解説致します。猪野々の自然ごと親しんで下さい。

（香北町立吉井勇記念館 鎮西三恵）



【窪川町立美術館】

窪川町は、高知県の西南部に位置し、清流四万十川に育まれた豊かな耕地と森林、黒潮の恵を孕んだ海を擁する、自然に恵まれた町です。その豊かな自然環境の中で、高南美術家連盟が生まれ、さらに昭和三十九年高南台地総合美術展覧会が開催されるなど芸術活動が盛んで、これまで多くのすぐれた芸術家を輩出してきました。しかしながら、町内にはそのすぐれた作品を紹介する施設がなく、多くの人々から、美術館の設置が望まれていました。

窪川町出身の洋画家、故中澤竹太郎氏のご遺族より七〇数点に及ぶ作品の寄贈を受けたのをきっかけに、平成十二年十月十八日に芸術文化の拠点施設として図書館を併設した窪川町立美術館が開館されました。

町内出身作家や町に関係ある作家を中心に収集することを基本方針に、現在今西中通の素描や水彩等の作品一〇三点、中澤竹太郎の作品七五点、岡林流仙の作品三五点など絵画を中心に二七八点収蔵しています。

【開館時間】 十時〜十七時三十分（日曜日のみ十五時三十分まで）

【休館日】 月曜日・祝日・十二月二十七日〜翌年一月五日

【入館料】 十五歳以上二〇〇円 ※高校・小中学生無料の方向で改正中です。

（窪川町立美術館 熊谷安郎）



活動報告

【講演会】

「博物館・美術館の著作権」

博物館・美術館には様々な著作物が
あり、それらを管理していく上で、著
作権に対する正しい知識と理解が必要
である。しかし、一言で著作権と言っ
ても内容は複雑で、参考図書などを読
んでも簡単に理解できるものではない。
そこで、博物館・美術館の実情に即し
た著作権についての講演を企画した。

講師 西村泰雄氏

(京都市立大学法文学部研究科助教授)

日時 平成十六年三月十日(水)

場所 高知県立文学館ホール

内容

一 著作権制度の概要

複雑な著作権制度について簡単な図
式を用いて、分かり易く説明してい
た。著作物とは「思想又は感情を
創作的に表現したものであって、文芸
学術、美術又は音楽の範囲に属するも
の」という定義を満たしたものを言う。
これらについて著作者の権利がある。
著作者の権利は様々だが、それらに
ついて詳細な説明があった。各博物館・
美術館はそれぞれの館の性格によつて
該当する項目が違い、どの項目を深く
知る必要があるのかが明白となり、大
きな収穫であった。

二 博物館・美術館の実務と著作権

次に、いくつかの事例を交えながら、
博物館・美術館の実務に関わる著作権
についての説明があった。具体的には
資料の展示・保存・パンフレット等の
作成・学習会等の開催に関わる著作
物の問題だが、各館には「そもそも著作
物には当たらないもの」や「著作物で
はあるが保護期間が満了しているもの」
も多数あることから、そうしたものに
ついての説明があった。

最後に、「各館は大抵、館内での写
真撮影を禁じているが、著作権法で保
護できない資料の撮影を禁止できる法
的根拠は施設管理権などで拒否するし
かない」などのお話もあり、普段の疑
問が解消する内容であった。質疑応答
は時間オーバーする程質問が多くあり、
各館疑問を抱えながら運営していたこ
とが感じられた。

【専門研修会】

「文化施設の運営と指定管理者制度」

現在、公益法人に管理委託を行つて
いる公の施設は、平成十八年九月一日
までに条例改正等を行い、指定管理者
制度に移行することが求められている。
文化施設は、単に施設の管理だけを
行っている施設と異なり、公益性の高
い事業を行う必要があるものだ。これ
からの制度改革を行ううえで、文化施
設は、各施設の運営にこうした考え方
を直接取り入れることの課題や問題点
を整理しておくことが重要であると考
えている。

今回の専門研修会は、施設側から見
た指定管理者制度を中心にお話いた
く講演を企画した。

講師 小林真理

(東京大学大学院人文社会学系研究科助教授)

日時 平成十六年六月十六日(水)

場所 高知県立文学館ホール

内容

まず最初に、指定管理者制度の概要
についての説明があり、次に、文化施
設運営の状況と問題点について、特に
文化ホール系の具体例を交えての説明
があった。博物館・美術館には根拠法
として博物館法が存在するが、文化ホ
ールにはそれが無いため、なんの施設
かが曖昧となっているなどが挙げられ
た。

そして次に、指定管理者制度導入の
手続きについてだったが、「すべては
ミッションから始まる」という言葉が
強く響いた。また、文化施設は「文化
権(文化的権利)実現の拠点」である
という認識を改めて理解し、地域作り
の拠点へと構想していかなければなら
ない。

最後に、各施設は、施設のあり方を
考え直し、自らの設置根拠や活動使命
を常に再確認・再構築する必要がある
という指摘などがあった。非常に深い
内容で、今後の導入に向けて何を
必要があるのかを認識させられた実
ある研修となった。

今回の研修を受けた上で、各関係者
の声を左のコラムに寄せていただいた。

十六年度の活動内容

企画調整部会

- ・ 会報誌の編集
- ・ 継続した事業の計画

研修企画部会

- ・ 講演会(三月十日)
- ・ 「博物館・美術館の著作権」
- ・ 専門研修会(六月十六日)

- ・ 「文化施設の運営と指定管理者制度」
- ・ NHK大河ドラマ関連の施設連携に
対する意見交換会(九月二十九日)
- ・ 教育普及部会
- ・ 学芸員リストの準備

- ・ これからの高知の博物館検討会(七
月二十六日)
- ・ 四国ミュージアム研究会(平成十七
年三月六〜七日)

事務局

- ・ ホームページの随時更新

十七年度の活動予定

企画調整部会

- ・ 会報誌の編集
- ・ 継続した事業の計画

研修企画部会

- ・ 研修(内容は会員の意見調査の上決定
(案)三菱総研(指定管理者関連)

教育普及部会

- ・ 学芸員リストの整備・完成

事務局

- ・ 十七年度各館事業計画の取りまとめ
(全施設の主な年間計画)
- ・ ホームページの随時更新

高知県文化推進課長

鶴岡 香代

く伝えてくださいました。快いテンポでしたが、理解が進むほどに、課題の重さは増していきます。

今年度取り組む「文化財団・文化施設等検討事業」は、「指定管理者制度」の導入を踏まえた検討を行う事業であり、これまでの施設の運営管理を大きく見直すことにつながるものです。将来にわたって大きく影響する内容であるうえ、厳しい財政状態の中、待ったなしの状況で結果を出すことを求められており、今年度の事業の中でもずしりと重みを感じるもの一つです。

講演会に参加された皆さんも、大方は私と同様に重みを感じていたのではないのでしょうか？小林先生は、いくつかの視点から、「指定管理者制度」をわかりやす

く伝えてくださいますか？

指定管理者制度の出てきた背景を考えれば、文化施設への指定管理者制度導入の課題は、明白です。規制緩和、民間活力の活用、財政難にあえぐ自治体のコスト削減などの方向性を持った制度を、公共的性格が強く、そもそも営利とはなじまないと言われてきた文化施設にどうソフトランディングさせるか？

答えにはまだまだ行き着きませんが、指定管理者制度導入への第一歩とも言えるこの講習会で、ネットワークのみならずこの講習会で、ネットワーキングのみならず、県民に支持され続ける文化施設に向けて、協議を深め、取り組みを進めたいと考えています。

高知県文化財団企画課長

藤田 直義

現在高知県では文化芸術振興基本法の制定を受けて高知県芸術文化振興ビジョン策定に向け検討を行っている。芸術文化の振興は、高知県の現在だけでなく高知県の将来にとっても重要なことである。高知県文化財団が現在管理運営を受託している施設では、歴史、民俗、美術、文学などの高知県の財産を将来のために収集保存すると共に、現在生きている人々の生活を豊かにし、未来を担う子供たちや若者の創造力を刺激するため様々な展示や公演、ワークショップを工夫を凝らして行っている。

指定管理者制度の導入は私達にとって黒船の襲来のようなものだが、これを機会にそれぞれ施設の使命とは何かを改めて考えてみる必要があると思う。使命に基づき活動すれば、自ずと高知県の芸術文化の振興に重要な役割を果たしてゆくことになるし、指定管理者としてふさわしい団体になるはずである。ただし限られた予算と人員で使命を達成するためには組織の生産性を上げなければならぬ。それには個々の能力アップと効率的な事務体制が必要である。

どのような競争相手が現れたとしても、高知県の将来のためには私達の組織が最も高知県を盛り上げるようにならなくてはなりません。

高知市立自由民権記念館

筒井 秀一

先日、某講習会で、指定管理者制度によって資料保存の継続性が保証されるのか、という趣旨の質問をしたところ、こちらの質問の仕方に問題があったのかもしれないが、講師の回答に建造物や陵墓の話が出て、あっこれは意図が伝わってないなど……。

講師は、財団関係者を元気づける意味で、今運営している施設の公募に負けたら、別の施設に手を上げることも可能ですよ、とも言われていた。

確かに、ホール等ノウハウ・ネットワーク

ク等の蓄積で仕事できる分野では可能かも知れないが、資料保存機能においては、ほとんどブラックユーモアであろう。

したがって、指定管理者に関して、博物館（図書館も）固有の論点があつて、それは資料を後世に伝えていく、ということとを核とするものもろの事柄だと思われる。もちろん、収蔵庫に納めておくだけであれば、それこそ指定管理者制度でOKかもしれない。

結局、どれだけ、自前の資料に依拠した活動が出来ているか、資料を通して市民と結びついているかだろう。

ミュージアムネットでも、これらの点に主眼をおいた議論をしておきたい。

高知県立歴史民俗資料館

梅野 光興

指定管理者制度は、財政難に苦しむ自治体にとってはコスト削減、一般市民にとってはサービス向上、民間企業にとってはビジネスチャンス、などさまざまなメリットが言われている。しかしながら、博物館や資料館、図書館などの文化施設にとってはどうなのだろうか。

言うまでもなく博物館には学芸員、図書館には司書などの専門職員がいて、長期勤務することで専門スキルを磨き、情報を蓄積し、一人前になっていくという流れがある。もちろん博物館や図書館自体が情報の蓄積装置なのだが、そこに勤める職員も一種の情報タンクのようなものである。公開された情報と同時にさまざまな文書化不可能な情報や知識を、

学芸員や司書は貯め込んでおり、そこからコンピューターとは異なる迅速で的確な情報提供や、コンピューターにはない新しい新たな研究や企画が生み出すのだ。また、学芸員や司書は研究者グループや同業者や地元の人々と独自のネットワークや信頼関係を築いており、長期間勤務することで、そのネットも広がり機能が高まっていく。三年や五年で経営母体が変わってしまうと、せっかく育ちつつあった職員がその時点でゼロに戻ってしまう。そもそも長期間にわたる研究は行なえない。短い準備期間しかない企画展は内容の薄いものになり、施設の魅力は減退するだろう（そもそも初年度は研究成果たる企画展は行なえない）。このように考えると指定管理者制度は、博物館や図書館の専門性、継続性には全く不適な制度としか思えない。

現場通信

総合的な学習の時間」の活用

京谷 直喜

博物館が持っている役割の一つとして「教育」がありますが、その方法としては、展示を介したものであったり、職員が直接参加者と対面して行うものであったりと様々です。

それぞれの施設によって学べること、伝える内容は異なりますが、工夫を凝らした展示や、専門の知識を持った職員のいる博物館での教育効果は高いものであると考えます。

足摺海洋館においても「土佐の海と黒潮の生き物たち」をテーマに展示している、多くの海洋生物の生きていく姿を見ることができ、また、イベントの実施などの形でも教育活動を行っています。

さて、最近の博物館の教育活動に関しては、小・中学校において平成十四年度より本格的に実施された「総合的な学習の時間」が設けられたことにより、博物館に対する学校の利用が増加した施設も多いのではないのでしょうか。当館においても、要望により飼育体験

などの形で対応しています。さらに当館では、海洋館から程近い土佐清水市立三崎小学校の四年生を対象として、「総合的な学習の時間」を利用し、海の事について学んでもらうと、二時間ほどのプログラムを月に一回、一年間を通して実施しています。この活動は平成十二年度より始まり、今年度で五年目となりました。

プログラムには、作る作業

や探す作業など、子供たちに行動を起こさせるよう内容を取り入れるようにと考えて作成しています。特に何かを観察するといったアクティビティでは子供たちの注意を引き続けるのが難しいので、観察の際に何か課題を与えるようにしています。

以下に平成十五年度に実施したプログラムの幾つを紹介いたします。

「潮だまりの観察」……海の干満についての話のあと、潮だまりに見られる様々な生き物などのスライドを見ながら、「海辺」レイチェル・カーソン著の一説を借りてスライドトークを行ったのち、フィールドに出て実際に観察してもらったもので、観察の際、○△□☆の形が書かれたカードを選んでもらい、その形を潮だまりの中で探し



てもらおうという流れになっています。「魚の観察」……スライドを使用して、水槽の中でも魚たちが喧嘩や産卵など様々な行動をしていることや、目のアップを見せて、瞳孔の形や光彩の色彩など種毎に異なる事などを紹介したのち、観察をする水槽の中の一匹を自分たちで決めてもらい、その魚の絵と、観察中に発見したこと気が付いたこと、その魚のニックネームを考えて、用紙に記入してもらおう。全員が書いた用紙を集めると、オリジナルの図鑑が出来上がるというもの。

「ウニ文鎮を作る」

……海の中では陸上では見られない生物群が多く見られます。その体の造りや生息は独特ですが、そんな生き物の一つであるウニに焦点をあて、その体の構造

口や肛門の位置や移動の仕方、色々なウニの種類などを見てもらったのち、ウニ文鎮を作りながら、自分自身で体の作りを確認してもらおうと言うものです。ちなみにウニ文鎮とは、あらかじめ茹でておいたウニを、歯ブラシやピンセットを使い、棘や内臓などをきれいに取り除いたあと、殻の中に石膏を流しこんだもの。

「夜の水族館」……夜、暗くなつてから子供たちに海洋館に来てもらい、

懐中電灯を片手に、水槽の中の生き物たちは、夜の間どのように過ごしているのか観察してもらおうというもの、石やサンゴの隙間で寝ているものや、夜の方が活発に行動しているもの、発光する魚など、昼間とは違った生き物たちの様子を見ることが出来ます。また、よりじっくりと観察してもらおうため、観察すると同時に俳句を一句作ってもらおうという内容になっています。

以上の他に「海藻押し葉」「ビーチコーミング」「サンゴの話」「貝殻細工を作ろう」「プランクトンの観察」「飼育体験」のプログラムを実施しました。

当館の位置する高知県西部、土佐清水市の海は、足摺宇和海国立公園に含まれ、自然度の高い海岸線や海中景観を多く残しています。しかしながら、これらの自然環境の現状は、サンゴ食性巻貝の大発生や、砂浜の減少など様々な場面で憂慮すべき状態となっています。

当館でのプログラム体験を通じて、子供たちに自分たちの暮らしている海に対し興味と関心を持ってもらい、さらに、今後は、この体験をきっかけにして保全活動へと発展することができればと考えています。

(高知県立足摺海洋館)



展示会批評

「ピカソ展 幻のジャクリューヌ・コレクシヨン」を観て

ているところの絵からご覧下さい」と声がけをしてくれました。担当者は企

ピカソ美術館展「ピカソ天才の誕生」が、二〇〇二年九月二十一日(土)〜十二月八日(日)まで、東京の上野の森美術館で開催されていた。

丁度、この企画展を観る機会に恵ま

ベレー帽をかぶった県内の老若男女が出演のコマーシャル「ピカソスキ」が始まった、日本初公開の「ピカソ展幻のジャクリューヌ・コレクシヨン」は、二〇〇四年の四月十日(土)〜五月二十三日(日)まで開催された。

画展開催期間中、会場にも努めて足を運び、入館者が増加すればするほど、企画内容以外にも気遣うことが多くなる。また、今回の関連企画も、内容が豊富であり、取り組みも大変だったことだろう。「入館者増」が叫ばれている昨今、主催者にとって入館者は多いに超したことはない。「ピカソ展」は、入場者が九万六千人を超え、多くの県民に受け入れられた。

れた私は、一枚の絵画の前で釘付けになった。それは、ピカソがバルセロナ美術・工芸展覧会(一八九六年四月二十三日から七月二十六日、美術宮殿)へ出品した作品(「初聖体拝領」である。フォンデビラ、ルシニョール、ノネイ、カザスをはじめ、ガルネーロや工藝のジュリ・ゴンサレスもといった、大家から新人までの作品、約一、三〇〇点)が出品、展示されたというこの博覧会で、当時一四歳と六ヶ月だったピカソは、最年少の出品者であった。きつとガルネーロのアトリエで画家だった父親のホセの指導も受けながら制作された作品だったのであろう。当時、初聖体拝領は、子供が一人前の信者として公認されるカトリックの信仰行事で、一族を挙げて盛大に祝われていたという。

今回、実行委員会形式をとった、高知における一大アートプロジェクトのこの企画展は、大成功。多くの人がびとが、展覧会へと足を運んだ。児童生徒の総見という学校も多く、我不肖の息子が通う高校までも、遠足ででかけた。その彼を再度伴い、会期中の最後の日曜日。人ごみは苦手な私だが、日本で初めて公開されるというジャクリューヌ・コレクシヨンに惹かれて出かけていった。予想通り、車は早々と渋滞に飲み込まれ、激しい雨の中を臨時駐車場の案内版を抱えた職員が通りすぎていく。やっとの思いで入場はしたが人

画展開催期間中、会場にも努めて足を運び、入館者が増加すればするほど、企画内容以外にも気遣うことが多くなる。また、今回の関連企画も、内容が豊富であり、取り組みも大変だったことだろう。「入館者増」が叫ばれている昨今、主催者にとって入館者は多いに超したことはない。「ピカソ展」は、入場者が九万六千人を超え、多くの県民に受け入れられた。

私の脳裏には、今もその絵画の情景が鮮明に焼きついている。後景の壁には、大きな十字架、二本の蠟燭が灯る祭壇の前には、純白の正装の少女が跪き祈りを捧げている。祭壇布や従者の

人々。人びとの後頭部を見て歩くありさま。「こんにちは、大盛況ですね」会場で観客の案内をしていた担当の松本さんに声をかけた。「朝からこの調子なのですよ」と汗だくの彼は「空い

さて、ピカソといえば「青の時代」「バラ色の時代」「キュビスムの時代」「新古典の時代」「シュールレアリスムの時代」等々、様式不在の画家であり、一般には「キュビスムの時代」以降の絵画でよく知られている。一見「子供」でも「素人」でも描けそうな絵。しかし、「絵画とは破壊の蓄積である」と彼が言っているように、ここに到着する為には、長年のピカソならではの蓄積があった。

私の脳裏には、今もその絵画の情景が鮮明に焼きついている。後景の壁には、大きな十字架、二本の蠟燭が灯る祭壇の前には、純白の正装の少女が跪き祈りを捧げている。祭壇布や従者の

りさま。「こんにちは、大盛況ですね」会場で観客の案内をしていた担当の松本さんに声をかけた。「朝からこの調子なのですよ」と汗だくの彼は「空い

さて、ピカソといえば「青の時代」「バラ色の時代」「キュビスムの時代」「新古典の時代」「シュールレアリスムの時代」等々、様式不在の画家であり、一般には「キュビスムの時代」以降の絵画でよく知られている。一見「子供」でも「素人」でも描けそうな絵。しかし、「絵画とは破壊の蓄積である」と彼が言っているように、ここに到着する為には、長年のピカソならではの蓄積があった。

私の脳裏には、今もその絵画の情景が鮮明に焼きついている。後景の壁には、大きな十字架、二本の蠟燭が灯る祭壇の前には、純白の正装の少女が跪き祈りを捧げている。祭壇布や従者の

りさま。「こんにちは、大盛況ですね」会場で観客の案内をしていた担当の松本さんに声をかけた。「朝からこの調子なのですよ」と汗だくの彼は「空い

さて、ピカソといえば「青の時代」「バラ色の時代」「キュビスムの時代」「新古典の時代」「シュールレアリスムの時代」等々、様式不在の画家であり、一般には「キュビスムの時代」以降の絵画でよく知られている。一見「子供」でも「素人」でも描けそうな絵。しかし、「絵画とは破壊の蓄積である」と彼が言っているように、ここに到着する為には、長年のピカソならではの蓄積があった。

私の脳裏には、今もその絵画の情景が鮮明に焼きついている。後景の壁には、大きな十字架、二本の蠟燭が灯る祭壇の前には、純白の正装の少女が跪き祈りを捧げている。祭壇布や従者の

りさま。「こんにちは、大盛況ですね」会場で観客の案内をしていた担当の松本さんに声をかけた。「朝からこの調子なのですよ」と汗だくの彼は「空い

さて、ピカソといえば「青の時代」「バラ色の時代」「キュビスムの時代」「新古典の時代」「シュールレアリスムの時代」等々、様式不在の画家であり、一般には「キュビスムの時代」以降の絵画でよく知られている。一見「子供」でも「素人」でも描けそうな絵。しかし、「絵画とは破壊の蓄積である」と彼が言っているように、ここに到着する為には、長年のピカソならではの蓄積があった。

私の脳裏には、今もその絵画の情景が鮮明に焼きついている。後景の壁には、大きな十字架、二本の蠟燭が灯る祭壇の前には、純白の正装の少女が跪き祈りを捧げている。祭壇布や従者の

短衣、少女の白色のベールと着衣の質感や光沢がリアルに描かれており、まるで神童とよばれた少年ピカソの観察眼の鋭さと写実の力量を誇示しているかのようにであった。

この絵は、受賞や買い上げにはならなかったことだが、五月二十五日付けの『デアリオ・デ・バルセロナ』紙上では「新人の作品。主要人物には、情感が息つき、一部に確固たるタッチの認められる作である」と評されたという。ピカソに対する最初の公の紹介記事だった。

そんなことを、思い出しながら、ピカソにとって、知性と芸術を理解する感性を備え持っていた女性ドラ・マールを描いた「帽子と毛皮の襟をつけた女」をはじめ、ピカソにとつて最後の女性ジャクリューヌを描いた作品の数々など、ジャクリューヌのもとに残された作品群を観てまわった。

今回の「はじめてのピカソ」は、大人だけでなく多くの子どもたちの心もつかんだようである。色彩の魔術師「ピカソ」に対する子ども達の賛美の声が、会場のあちこちから聞こえていた。「ピカソ好き」初めてピカソに触れた時の子どもたちの感想でもあろう。

一大旋風を巻き起こした「ピカソ展幻のジャクリューヌ・コレクシヨン」は、人びとに感動を与え幕を閉じた。本物を見る喜びを多くの県民のみならずと共有できたことに感謝するとともに主催者側の企画力を見せつけられる企画展だった。

(高知県立文学館 津田加須子)

※17年度幹事館

会員一覧

[会長：高知県立歴史民俗資料館館長・坂本正夫]

- 安芸市立書道美術館
- 安芸市立歴史民俗資料館
- いの町紙の博物館
- いの町立吾北中央公民館
- 絵金蔵（新会員）
- 絵金資料館
- NPO法人高知こどもの図書館
- 香北町立やなせたかし記念館
- 香北町立吉井勇記念館
- 窪川町立美術館
- 高知県立足摺海洋館
- 高知県立坂本龍馬記念館※
- 高知県立図書館※
- 高知県立のいち動物公園
- 高知県立美術館※
- 高知県立文学館※
- 高知県立埋蔵文化財センター
- 高知県立牧野植物園※
- 高知県立歴史民俗資料館※
- 高知こどもの図書館
- 高知市生涯学習課
- 高知市民図書館
- 高知城懐徳館
- 高知市立自由民権記念館※
- 国際交流の館ジョン万ハウス
- 子どものための民具体験館
- 金剛頂寺霊宝館※
- 佐川町地質館
- 定福寺
- 宿毛市立坂本図書館
- 宿毛市立宿毛歴史館
- 須崎市立須崎図書館
- 竹林寺宝物館
- 土佐足摺さんご博物館
- 土佐市立市民図書館
- 土佐豊永万葉植物園
- 土佐山内家宝物資料館※
- 中岡慎太郎館
- 中村時計博物館
- 春野町立郷土資料館
- 平和資料館草の家
- 木遊館 樹華夢
- 横倉山自然の森博物館
- 横山隆一記念まんが館※
- 龍河洞博物館
- 龍馬歴史館
- わんぱくこうちアニマルランド

個人会員

林 一 将（古溪城）

こうちミュージアムネットワーク通信
第3号

平成17(2005)年3月31日

編集 こうちミュージアムネットワーク
企画調整部会（高知県立坂本龍馬
記念館・横山隆一記念まんが館・
財団法人土佐山内家宝物資料館）
事務局 高知県文化環境部文化推進課芸術
文化班
電話 088-823-9793

会員募集

●こうちミュージアムネットワーク●

こうちミュージアムネットワークでは、
随時入会の申し込みを受け付けています。
現場に役立つ様々な事業を実施しています。

【資格】

①法人会員

- ・文化施設（博物館・資料館・美術館・
図書館のほか、資料の収集、研究、保存、
展示を行っている施設）
- ・文化行政機関
- ・教育機関
- ②個人会員
- ・法人会員に適する機関に属する個人

【会費】

無料

【申し込み方法】

- ・入会申込用紙に必要事項を記入の上、
事務局にファックスで申し込み。
- ・事務局
高知県文化環境部文化推進課芸術文化班
電話（〇八八） 八三一九七九三

情報コーナー

FAX（〇八八） 八三一九二九六
（ホームページに申込書雛形掲載）

新施設紹介

●絵金蔵●

平成十七年二月十一日、絵金の町とし
て有名な赤岡町に、絵金の博物館がオー
プンしました。絵金蔵では、町内に残さ
れた二十三枚の屏風絵を収蔵・保存し、
展示が行われています。

【場所】高知県香美郡赤岡町五三八
電話・FAX（〇八八七） 五七七一七

【開館時間】午前九時～午後五時
（入館は四時半まで）

【入館料】大人五〇〇円（四五〇円）
高校生三〇〇円（二五〇円）
小・中学生一五〇円（一〇〇円）

※（ ）内は、十五名以上の団体料金
【休館日】毎週月曜日（月曜日が祝日の場
合は翌火曜日）十二月二十八日～翌年
一月四日

展示会

●財団法人土佐山内家宝物資料館●

山内家資料移管記念・土佐山内家宝物資
料館十周年記念展
土佐藩主山内家の至宝『国宝と重要文化財』
—古今和歌集高野切本・太刀兼光・長宗
我部地検帳—

【会期】平成十七年四月二日（土）～五月
二十九日（日）会期中休館日なし

【開館時間】午前九時～午後五時（入館は
四時三十分まで）ただし、毎週水曜日
は午後七時まで開館時間延長

【会場】高知県立文学館

【入館料】一般四〇〇円 高校生以下無料

【特別講演会】
日時：平成十七年四月三日（日）
午後二時～三時三十分

会場：高知城ホール四階 多目的ホール
講師：島谷弘幸氏（東京国立博物館）
題目：国宝高野切本古今和歌集の美と価
値

【学芸員講座】

日時：平成十七年五月八日（日）
午後二時～三時三十分

会場：高知城ホール二階 大会議室
講師：横山和弘（土佐山内家宝物資料館
展示担当学芸員）
題目：土佐藩主山内家伝来の資料につい
て

※講演会・講座への参加をご希望の方は、
葉書に住所・氏名・電話番号をご記入
のうえ、土佐山内家宝物資料館へお申
込み下さい。電話でも受付いたします。

住所 〒七八〇一〇八六二
高知市鷹匠町二丁目四番二六号
電話・FAX（〇八八） 八七三二〇四〇六

【図書発刊】

『こうちミュージアム白書二〇〇四』

こうちミュージアムネットワークでは、
アンケートの回答を元に県内の博物館事
情を、右の白書にまとめました。事務局
に若干残りがありますので、希望者は文
化推進課までご連絡下さい。